

# お知らせ

INFORMATION

No.2017-01

2017年1月

病体生理研究所

## 新規受託開始について

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は当研究所をご利用いただきまして誠に有り難うございます。

この度、下記項目におきまして、新たに受託を開始させて頂くことになりましたのでご案内いたします。

何卒、ご利用頂けますようご案内申し上げます。

敬具

記

### 【新規受託開始項目】

- ◆ 抗MDA5抗体 [16391]
- ◆ 抗Mi-2抗体 [16397]
- ◆ 抗TIF1- $\gamma$ 抗体 [16394]

※項目情報裏面参照

《受託開始日》2017年2月1日（水）受付分より

以上

【新規項目情報】

項目名称	抗MDA5 抗体	抗Mi-2 抗体	抗TIF1- $\gamma$ 抗体
コード	16391	16397	16394
検体材料	血清 0.3m L	血清 0.3m L	血清 0.3m L
保 存	冷蔵	冷蔵	冷蔵
採取容器	1→5	1→5	1→5
検査方法	ELISA 法	ELISA 法	ELISA 法
基準値	判 定：(-) インデックス値：32 未満	判 定：(-) インデックス値：53 未満	判 定：(-) インデックス値：32 未満
所要日数	3～10 日	3～10 日	3～10 日
実施料 (区分)	270 点 <sup>*1, *2</sup> (D014 26)	270 点 <sup>*1, *2</sup> (D014 26)	270 点 <sup>*1, *2</sup> (D014 26)
判断料	144 点 (免疫学的査判断料)	144 点 (免疫学的査判断料)	144 点 (免疫学的査判断料)
備考	<p>*1: 厚生労働省難治性疾患克服研究事業自己免疫疾患に関する調査研究班による「皮膚筋炎診断基準」を満たす患者において測定した場合に算定できます。</p> <p>*2: 「抗MDA5 抗体」、「抗Mi-2 抗体」、「抗TIF1-<math>\gamma</math> 抗体」と区分番号 [D014] 自己抗体検査の「9」から「14」までおよび「17」に掲げる検査を2項目または3項目以上行った場合は、所定点数にかかわらずそれぞれ320点または490点を算定できます。</p>		

自己免疫性筋炎には横紋筋を広範に障害する炎症性筋疾患である多発性筋炎 (Polymyositis ; PM) と皮膚症状を伴う皮膚筋炎 (Dermatomyositis ; DM) があり、一般に PM/DM と表されますが、この度受託を開始する三つの検査は DM の診断に有用とされており、昨年 10 月 1 日付で新規に健康保険適用になりました。

### 【抗 MDA5 抗体】

皮膚症状のみで臨床的に 6 ヶ月以上筋症状が認められない皮膚筋炎患者を無筋症性 DM ( clinically amyopathic dermatomyositis ; CADM) と呼び、DM に特徴的な皮疹を有してはいますが、筋力低下などの症状に乏しく、CK や筋電図等の検査所見にも異常を認めることが少ないとされています。近年、免疫沈降法により CADM 患者の血清中に分子量 140kDa のバンドが認められたことから、この自己抗体は抗 CADM - 140 抗体と呼称されました。その後、この抗体の対応抗原が melanoma differentiation - associated gene 5 ( MDA5) であることが判明し、抗 MDA5 抗体と命名されたため、抗 CADM - 140 / MDA5 抗体と呼ばれることがあります。

DM 患者と比較し、抗 MDA5 抗体陽性 (CADM) 患者は高率に急性間質性肺炎 (AIP) を併発し、その中の多くは急速に呼吸困難が進行する急速進行性間質性肺炎 (rapidly progressive ILD : RP - ILD) とされています。RP - ILD は数日から数週間で急速に呼吸不全が進行し、強力なステロイド剤や免疫抑制剤投与などに対しても治療抵抗性で予後不良とされています。RP - ILD 合併 CADM の報告例は日本を含む東アジア地域に多く、欧米諸国においても近年同様の報告が認められています。

抗 MDA5 抗体は CADM に特異的に認められる自己抗体で、他の自己免疫疾患ではほとんど検出されず、成人 DM における出現頻度は 10 ~ 25% とされています。

また、抗 MDA5 抗体陽性の患者における RP - ILD の合併頻度は 50 ~ 70% であり、治療前の抗体価が予後に関連があることを示唆する発表や、抗体価の推移が経過観察に有用との報告もあり、今後の研究が待たれます。

### 【抗 Mi-2 抗体】

1976 年に Reichlin らにより DM 患者の血清中に認められた自己抗体で、名称は患者の頭文字に由来します。DM のおよそ 5 ~ 33% に認められるとされており、無筋症性皮膚筋炎 (CADM) や他の自己免疫疾患で陽性になることは稀であり、DM に非常に特異性の高い自己抗体です。

本抗体陽性の DM 患者は Gottron 徴候やヘリオトロープ紅斑などの典型的な皮膚症状が認められ、治療反応性がよく予後良好な症例が多いといわれています。

### 【抗 TIF1- $\gamma$ 抗体】

DM 患者のおよそ 2 ~ 3 割に認められるといわれ、抗核抗体検査の染色型としては speckled または homogenous が対応しますが、比較的低位価にとどまるといわれています。

抗 Mi-2 抗体と同様に他の自己免疫疾患で陽性になるケースは少ないとされていますが、悪性腫瘍合併の DM で高頻度で認められ陽性率は 50 ~ 75% という発表もあります。

また、小児 DM の 2 ~ 3 割が本抗体陽性とされ、現状で行われている自己抗体検査で最も高い陽性率を有していると考えられており、本抗体陽性の小児 DM は Gottron 徴候や皮膚潰瘍などの皮膚徴候が顕著であるといわれています。なお、悪性腫瘍との関連はないとの報告があります。